

(議長)

次に、小笠原議員の発言を許可致します。

「小笠原議員」

はい、議長。

(議長)

「小笠原議員」。

「小笠原議員」

どうも。しばらくぶりの一般質問です。宜しくお願いしたいと思います。

4項目にわたってあの質問致します。今回の質問は特に町長の執行方針に基づいたところの質問ですので、簡単な問題から質問致します。

まず、最初に防災対策について質問致します。このことについては、東日本の大震災の後をうけてですね、水堀町内会の町内では、町内の津波浸水の時にどのように対応するのかというそんなことがございます。特に、今年の町内、水堀町内会の総会には、やはり大きな課題に挙がっておりました。町においては、避難場所である火葬場の上の方に、避難訓練をした経過がございます。

更にあの去年の3月、今頃だと思えますけれども、水堀町内会の会長で、会長の室井氏からの道新の報道があります。これは記憶にあるだろうと思えますけれども、その記録、その発表のとおり、近くの高台といいますか、トリコ山周辺を指定したいという、そんなあのことでした。ただそこに行くには、田んぼの中の真っ白な道路ですけれども、特にあの風車の4号、5号のあの下の町道、まっすぐな道路、せめて2本位は舗装してもらえないかなという、そんなことであの一般質問致します。まあ、ひとつ宜しくお願いします。

(議長)

はい、「町長」。

「町長」

小笠原議員の1問目、避難可能な場所に通じる道路の舗装についてのご質問でございます。

議員ご指摘のあった内容につきましては、平成26年11月実施の北海道防災総合訓練終了後の町内会との意見交換会において、山側に避難できる沢があるので避難経路の整備を希望されていることや、昨年3月11日に水堀町内会長が車を使った訓練を検討しているとの、報道がされたことは承知しております。

ここで言う、山側に避難できる沢というのが、議員おっしゃる、通称トリコ山のことで

推察しますが、市街地からそこに行く避難経路としての道路舗装ができないかという内容でございます。

議員の思い描く道路は町道でございますが、未舗装ではありますが、以前から日常の維持管理に努めてきたところであり、町道2本の総延長は1.8キロメートルを超えることから、舗装につきましては難しいものと考えております。

また、水堀地区は海拔3から5メートルの平坦地であることを踏まえ、今後におきましても、地域住民の自発的な動きと連携しながら、有効な避難方法を町内会とともに探って参りたいと考えておりますので、ご理解願えればと思います。

(議長)

いいですか。はい、「小笠原議員」。

「小笠原議員」

はい。町長の答弁はなかなか難しいようですけれども、まあ一つ期待に添うようお願いしたいなと思っています。

ここであの町内会の総会のことが出ておりますので、ちょっとあの町長に話したいと思います。今年の総会にも、あの照井町長に毎年総会の案内状くれる、出しているけれども、どうして一回も来ないのかという、そういうあの話が出ておりました。毎年というのも去年と今年だけですけれども。それでですね、町民の方々から、あの町会議員お前、その当時、色々な意見がありましたけれども、町会議員ちゃんと聞いているかと。今度お前町長に言っておくと、来年来るようにと、そういうあの話がありましたので、この際に言っておきます、一つ。答弁出来たら願いたいなと。あの町長から。

(議長)

はい、「町長」。

「町長」

町内会の会合への出席のご質問だったと思います。出来る限り、あの各町内会からあのご要請があったものに関してはですね、公務に他の公務と重なって支障が出ない限りでは、出席しているつもりではいるんですけども、議員おっしゃるとおり、水堀町内会から何度も出席の要請があるにも関わらず、他の公務と重なってしまい出席が叶わずにいます。今後においてですね、優先的に水堀の皆さんのお話を聞けるように頑張っていきたいと思っておりますので、ご理解願えればと思います。

(議長)

はい、いいですね。2番目の質問。

「小笠原議員」

はい、あのその意見に対して、あの町長は都合悪くて来られないのだと言っておいたけども、まああのいいです。

次にあの。

(議長)

はい、2問目。

「小笠原議員」

はい、次の質問に入ります。

町道の改良工事について、をお伺いします。

水堀から五厘沢間の道路、これはあの40数年前に出来たあの農免道路事業で作った道路です。はっきりしたあの年数がわかりませんが、恐らくそれ以上経つだろうとあの思っています。もう相当古くなっておりますし、町会議員の方々も選挙の4年に1回の選挙の時に歩くから、よく知っていると思えますけども、特にあの逆川公園から五厘沢の間、すごく良くないです。

それから次に大橋から鯨川橋までの間、あそこ500メートル位の間隔だろうと思うけども、あの間も道幅が狭くて大型交差するのにあの十分で、不十分です。

その点も、さらにあそこはあの冬になると猛吹雪になりますので、防雪柵も考えてもらいたいなとそんな風に思っておりますし、さらに鯨川橋から広部宅前の交差点周辺も、あの間も、ひとつ見てほしいと思うし、いわゆる逆川地区全体の道路だと、を言っておりますので、宜しくお願ひしたいと思えます。

このことについては、担当課の方ではよく一番知っていることだろうと思っております。道路改良事業は何せ財源の伴う事業ですから、大事業としてせめて5年か6年位の年度計画を持って、考えられないのか質問致します。何かあの通告には、10年位って書いておりましたけども、10年と、あまり長いのでこれ訂正します。5、6年にしたいと思えますので、宜しくお願ひします。

(議長)

はい、「町長」。

「町長」

次に、町道五厘沢山崎線と逆川周辺の道路改良についてのご質問であります。

当該路線等の現状につきましては、十分承知しているところでありますが、五厘沢山崎線は延長が約3.6キロと非常に長い路線でもあり、さらに逆川周辺の道路、または防雪

柵の設置等と併せますと、道路改良に係る事業費は議員ご指摘のとおり膨大となるものと考えております。

このことから道路改良につきましては、財源対策が最大の課題であり、国の補助事業制度や整備手法等有るかどうかも含め、関係機関に相談を行い、財源対策等の目途がついた段階で検討して参りたいと考えておりますので、ご理解願えればと思います。

従いまして、直ちに事業化は困難なものと考えておりますので、当面は日常の道路維持に努めて参ります。

また、議員ご指摘のとおり道路改良事業が具体的になれば一定の年次計画を立てた上で実施しなければならないものであると認識しておりますので、ご理解願えればと思います。

「小笠原議員」

はい。

(議長)

はい、「小笠原議員」。

「小笠原議員」

なかなか財源の問題もあるし、何年も前にそんなあの質問もしましたけれども、なかなか前に進んでおりませんけれども。何ていいですか。大事業だろうとは思うんで、この道路造るのにどの位のお金がかかるのか、大ざっぱでも構いませんから、課長の方から発言あればなと思っています。どうですか。

(議長)

はい、「建設水道課長」。

「建設水道課長」

議員の方からあの五厘沢山崎線とですね、逆川周辺の道路改良に係る概算工事費ってことでの質問でございますけども、あの五厘沢山崎線につきましてはですね、以前にあの積算した経過、あのスーパー概算ですけども、積算した経過ございまして、概ねですね、2億8千万から3億程度、原土のまま、整備するにしてもその程度かかるであろうということで、数字が出てございます。逆川周辺もそれに加えると、また防雪柵の設置もそれに加えると致しますと、恐らく5億は軽く超えていくんではないかなという風に思っております。

このような、事業の規模ですので、先程あの町長の答弁からもありましたように、財源対策が、最大の課題でございます。今後はあの関係機関とですね、ちょっと相談をしながらでなければ、町独自若しくは単独事業での、整備というのは厳しいという風に考えて

ございますので、ご理解願います。

(議長)

いいですね。

「小笠原議員」

はい、わかりました。

(議長)

はい、次、3問目でいいですか。

「小笠原議員」

いいです。

(議長)

はい、「小笠原議員」。

「小笠原議員」

銭、無いと出来ないことだから。

次にあの進みます。ひのき荘の改築について、質問します。

このことについては、町長の執行方針に、きめ細かく出ておりましたので、敢えて質問することもないのかなと思っていましたけれども、更に今朝の道新には大きく出されておって、何か俺の出鼻をくじかれたなとそんなあの感じが致しましたけれども。

ただあの、民設民営化ですか。このことはあの今まであんまり無かったのだよね。だから、その辺は、このことについてはあの財源の問題からして、これはいいことだろうなと思っていますし、私もあの賛成です。従って、その方の、その経緯についての見通しはどうなのかなとそんなあの思いでおります。かつてあの、雄心会の件もあったし、またああいうところが来ればいいなと、思いがありますけれども、その辺どうなのか、お尋ね致します。

(議長)

はい、「町長」。

「町長」

ひのき荘改築にかかる民設民営の見通しのご質問でございますが、執行方針で改築に向けた私の考えをお示ししましたとおり、設置主体は運営上のコストのみならず、専門性の

高い施設サービスの提供面などから、民設民営を軸に取り進める方針であります。

近年の老人福祉施設の形態は、公設公営から公設民営或いは民設民営へとシフトする流れとなっており、その時期は改築時という節目にあわせて移行する事例が多く見られます。

ご質問の趣旨は、民設民営とした場合に受け入れる法人に目途がたっているのかということと受け止めておりますが、今申し上げられることは、少なくとも江差町内には高齢者福祉事業に実績のある、或いは精通している社会福祉法人が複数あるということでありま  
す。社会福祉法人の対象範囲や支援策を含めた条件提示など、今後議員の皆様ともしっかり協議をしながら、公募の事務を取り進めて参りたいと考えております。

(議長)

「小笠原議員」。

「小笠原議員」

執行方針によりますと、平成32年を目途にということですから、まだまだしばらくありますので、じっくりあのかかって、立派なもの作ってもらえればなとそんな風に思っています。

次に移ります。

(議長)

4番目、4問目ね。

「小笠原議員」

最後の質問です。

農業振興政策について、をお尋ね致します。

このことについても、執行方針にきめ細かく出ておりますので、こまこまと言うことは控えますけども。ただ改良区の施設については、相当老朽化されております。だいぶ古くなって、ところ、ところにポロポロと穴が開いてるところもありますし、聞くところによると、国の事業でやりたいというそういう話も聞いておりますので、更に暗渠排水事業なり、或いは大型水田整備等のあの大きな費用のかかる大工事であります。従って、今、通告では、改良区で組合員の地区ごとの懇談会をやっていると申しますけども、通告の時点では、やっていたけれども、昨日はもう終わったというそんなあの話も聞きましたし、いずれにしても国の事業であります。改良区に頼ることなく、町も改良区もひとつ一丸となって農家の負担を軽減するように、一つ強い指導を願いたいなとそんな思いであの発言しているところでございます。

次にあの町内の水田、いわゆる圃場整備の終わった水堀地区の水田ですけども、厚沢部町の人にだいぶ借上げされております。このことは、前の課長に何時かあの話されました

けども、なかなかそれを阻止するってことは、我々は出来ませんので、何か良い方法はないのかなってそんな思いであの発言しますので、宜しくお願いします。

(議長)

はい、「町長」。

「町長」

江差北部地域における道営土地改良事業の指導強化についてのご質問ですが、北部地域においては、昭和50年代から道営ほ場整備事業等により、用排水路の整備と合わせ、3反区画を標準とした区画整理等の基盤整備を実施し、今日まで農業・農村の振興に寄与してきたところです。

しかしながら、その整備が完了して30年以上が経過し、特に用排水路については老朽化が著しい区間があり、多くあり、施設の更新・改良が望まれているものであります。

ご承知のとおり土地改良事業につきましては、国営・道営・団体営と、事業主体別に様々な支援メニューが用意されております。近年は全国的・全道的に基盤整備の要望が増加していることから、予算の確保が困難な状況にあり、効果的・効率的な基盤整備のあり方を地域全員で検討することが大変重要となっております。

従いまして、地域の課題や目指す営農の姿などについて意見交換し、共通認識に立ち、北部地域にあった整備のあり方を地域全員で考えていくため、先頃、地域の声を隅々まで把握すべく地域をブロック別に分けて、関係者による検討会を開催したところであります。

今後におきましては、取りまとめた要望をもとに、道や土地改良区と連携して、効果的な整備手法を検討し、早期着工を目指して参りたいと考えていますとともに、併せまして、町の支援策につきましても、ブロック別検討会を通じながら、負担軽減策や農地流動対策など、あらゆる角度から検討して参る所存でありますので、ご理解頂きますよう、宜しくお願い申し上げます。

続きまして、他町からの入作者対策についてでありますけれども、現状では、農地の賃貸借及び売買につきましては、相対での話し合いで進められてきていることから、町外からの入作者を拒むことは出来ない状況になっておりますことを、まずご理解頂きたいと思えます。

農業委員会も、各農業委員が、後継者不足や高齢化など、農地の賃貸借や売買を希望している方々に対して、相談の窓口となるべく、毎月の総会で情報の共有を図りながら、町内の農業経営者へ、農地の賃貸借や売買の働きかけを進めているものと聞いております。

今後は、農業委員会において、より一層、地域への情報提供に努めて頂きますとともに、今後進めていく土地改良事業を見据えた、農地集積及び流動化に合わせて、町内の農業経営者が優先して賃貸借及び売買が行える制度設計について、町としても検討して参りたいと考えおりますのでご理解頂きますよう、宜しくお願い申し上げます。

(議長)

はい、「小笠原議員」。

「小笠原議員」

農地の売買ですけれども、相対でね、売る人と買う人と協議して値段が決まればもうそこで売買は成立する訳ですから、本当にどうしようもないっていえばどうしようもないのでしょうね。そこで何か行政として良い方法がないのかなとそんな思いであの質問した訳です。なかなか大変な問題ですけれども、一つ宜しくお願ひしたいなと思っています。

それからあの、圃場整備について、地区ごとに懇談会、何カ所かやったはずなのだけれども、それであの役場の方から、その話聞いていますか。報告受けていますか。あの課長が出席した経緯はあるのですか。ちょっとお尋ねします。

(議長)

「産業振興課長」。

「産業振興課長」

あのこの事業につきまして、今、道営事業で、改良を加えていくことを検討しているものでございまして、これの前段として各地域、地区で、どのような考えを持っているのかということで、実は5地区に分けてましてですね、ブロック会議を開催させてもらっているという状況です。あのこれは当然あの道が会議を開くとか、改良区が開くとかってことではなくて、改良区中心としまして、町も入っていますし、あの振興局にも入って頂きながらですね、それぞれの地区での悩み、それから今後の農業経営に対する考え方、希望含めてですね、取りまとめをさせてもらっているということです。ただ残念ながら、全あの会場にですね、全農家の方がいらっしゃっている訳でないので、今後はアンケートも含めてですね、取りまとめをしますけれども、アンケートにつきましても出来るだけこの趣旨をですね、ご理解頂いて、全農家から出来ましたら100パーセントに近い形でですね、アンケートを希望を取りまとめる形で、事業の取り進めをしていきたいという風に考えています。ちなみに私も実は2箇所参加させて頂きましたけれども、あの私も別会議等で出られない時は全てあのうちの町の職員も、同行して、要望等を確認しているという状況でございます。

(議長)

はい、小笠原議員、いいですか。「小笠原議員」。

「小笠原議員」

もうあといいです。終わります。

(議長)

いいですか。

「小笠原議員」

はい、はい、わかりました。

(議長)

以上で、小笠原議員の発言を終わります。

「小笠原議員」

以上、簡単な質問ばかりですが終わります。